

適切な元号を入れてください。(報告年度ではなく、設置年度となりますのでご注意ください。)

学校コード 353

注3

設置年度 令和 2年度

計画の区分： 学部の学科の設置

注1

プルダウンで選択してください。

認可

注2

東京医療保健大学

立川学部

看護学科

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書 (改正前大学設置基準適用)

学校法人青葉学園

令和5年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名	立川事務部
職名・氏名	シュニン 菊池ヒロノリ 主任 菊池広訓
電話番号	042-524-7201
(夜間)	設置なし
e-mail	tachikawa-jimu@thcu.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

立川看護学部

<看護学科>

ページ

1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	15
4. 既設大学等の状況	16
5. 教員組織の状況	17
6. 附帯事項等に対する履行状況等	29
7. その他全般的事項	30

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人青葉学園

(2) 大学名

東京医療保健大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒190-8590
東京都立川市緑町3256
(141-8648)
(東京都品川区東五反田4-1-17)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タムラ テツオ) 田村 哲夫 (平成14年4月)		
学長	(カメヤマ シュウジ) 亀山 周二 (令和2年4月)		
学部長	(ヤマニシ フミコ) 山西 文子 (令和2年4月)	(オサダ ケイコ) 長田 恵子 (令和4年6月就任予定)	学部長が東が丘看護学部長と兼任だったことから長田恵子が立川看護学部長に就任。
学科長等	(ヤマニシ フミコ) 山西 文子 (令和2年4月)	(オサダ ケイコ) 長田 恵子 (令和4年6月就任予定)	学科長が東が丘看護学部看護学科長と兼任だったことから長田恵子が立川看護学部看護学科長に就任。

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)

令和5年度に報告する内容 → (5)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
 ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和5年度までの6年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）」により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。編入定員を設定している場合に年次ごとに記入してください。設定していない場合は「0」を記入してください。

(5) ① 調査対象学部等の名称等

プルダウンで選択してください。複合分野で6つ以上の選択が必要な場合は御相談ください。

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
立川看護学部 看護学科 学士(看護学)	保健衛生学関係 (看護学関係)	4年	100人	2年次 0人 3年次 0人 4年次 0人	400人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。（学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。）

(5) ② 調査対象学部等の入学者の状況

完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、開設年度からの入学者の状況を記入してください。記載しきれない場合は、別途ご相談ください。

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
A 入学定員	() []	() []	() []	() []	100人 -	() []	100人 -	() []	100人 -	() []	100人 -	() []	1.18倍	—倍	1.16倍	—倍	
志願者数	() []	() []	() []	() []	656 -	() []	733 -	() []	750 -	() []	620 -	() []					
受験者数	() []	() []	() []	() []	605 -	() []	697 -	() []	689 -	() []	561 -	() []					
合格者数	() []	() []	() []	() []	237 -	() []	283 -	() []	247 -	() []	233 -	() []					
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	118 -	() []	123 -	() []	114 -	() []	117 -	() []					
入学定員超過率 B/A					1.18		1.23		1.14		1.17						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
 ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
 ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・ 「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
 ・ なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
 ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和6年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
 ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考	
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
1年次	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	118 (-)	[-] (-)	126 3	[-] (-)	[-] (-)	113 (-)	[-] (-)	120 3	[-] (-)	
2年次	[]内には、留學生の状況について、()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。		[] ()	[] ()	[-] (-)	[-] (-)	113 (-)	[-] (-)	[-] (-)	118 3	[-] (-)	116 6	[-] (-)	
3年次			[-] ()	[-] ()	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	112 (-)	[-] (-)	112 3	[-] (-)	
4年次	[]内には、留學生の状況について、()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。		[]内には、留學生の状況について、()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。		[]内には、留學生の状況について、()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。		[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	112 (-)	[-] (-)	
計							[] ()	[] ()	[-] (-)	[-] (-)	118 (-)	239 (3)	[-] (-)	[-] (-)

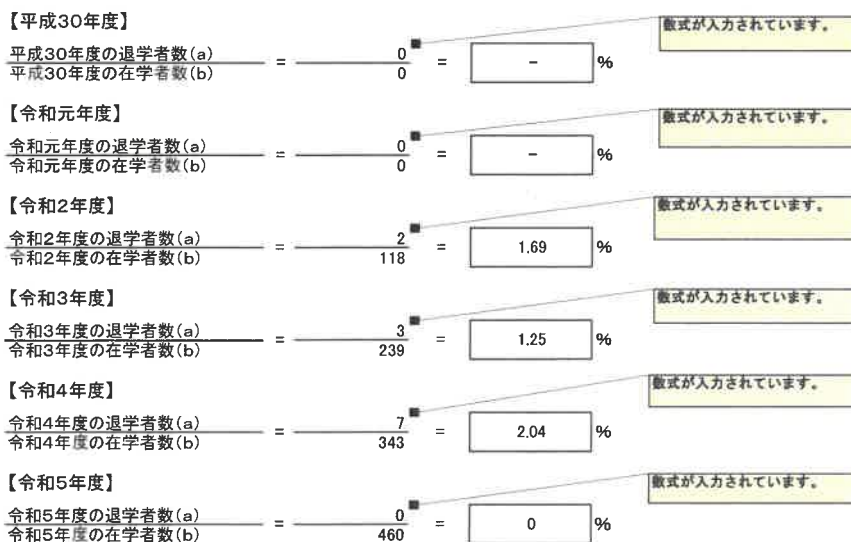
- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留學生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留學生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	118人	2人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	2人	0人	進路変更
令和3年度	239人	3人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	3人	0人	進路変更
令和4年度	343人	7人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	1人	0人	学生個人の心身に関する事情
			令和3年度	2人	0人	進路変更、就学意欲の低下
			令和4年度	4人	0人	進路変更
令和5年度	460人	0人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
合計		12人		12人	0人	

- (注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合



(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<立川看護学部 看護学科>

(1) ① 授業科目表
【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					任・兼担
			1	2	3	1	2	3	4	5	
基礎分野	文化人類学	1前	1								1
	哲学	1前	1								1
	倫理学	1前	1								1
	社会学	1前	1								1
	法学	1後	1								1
	人間関係論	1前	1								1
	心理学	1前	1								1
	実用英語 I	1前	2								4
	実用英語 II	1後	2								4
	実用医療・看護英語	2前	2								4
	中国語	1前	1								1
	スペイン語	1前	1								1
	スポーツ科学	1後	2								1
	教育学	2前	2								1
	社会保障制度概論	2前	1								1
	災害ボランティア論	2後	1			1	1	1	1		1
	情報リテラシー	1前	1								1
	論理学	1前	1								1
	自然科学の基礎	1前	1			1	1	1			1
統計学	2前	2								1	
小計 (20科目)	-	15	11	0	1	1	1	1		19	
専門基礎分野	医療と法 (看護関係法規)	2前	1								1
	医学概論	1前	1								1
	解剖生理学 I	1前	2								1
	解剖生理学 II	1前	2								1
	病理学	1後	2								1
	生化学	1後	1								1
	微生物学	1前	1								1
	薬理学	1後	1								1
	疾病と治療 I (呼吸器系・消化器系)	1後	2								2
	疾病と治療 II (血液系・循環器系)	1後	2								2
	疾病と治療 III (神経系・骨筋系)	2前	2								2
	疾病と治療 IV (泌尿器系・生殖系・内分泌系)	2前	2		1						1
	疾病と治療 V (感覚器系・統合)	2後	2								1
	疾病と治療 VI (精神系)	2後	1								1
	臨床検査学演習	2後	1			1	1	1			1
	臨床栄養学演習	2後	1								1
	臨床薬理学演習	2後	1								1
	公衆衛生学	2前	2			1					1
	人間工学	2前	1								1
保健医療福祉システム論	2前	1				1				1	
政策医療論	2後	1								1	
医療・看護情報学の基礎	2前	1			1					1	
医療・看護論文の講読	2後	1			1					1	
小計 (23科目)	-	30	2	0	1	1	1	1		21	
基礎看護学	看護学概論	1前	1		1						1
	看護倫理	1後	1		1						1
	看護理論	2後	1		1		2	1			1
	看護学体験実習	1前	1		1		10	3			1
	看護実践技術論 I (日常生活における援助技術と判断)	1前	2		1		1	2			3
	看護実践技術論 II (治療・処置における援助技術と判断)	1後	1		1		1	2			3
	看護実践技術論 III (看護技術の統合)	1後	1		1		1	2			3
	ヘルスアセスメント	1前	1		1		1	2			3
	フィジカルアセスメント	1後	1		1		1	2			3
	看護過程と看護方法論	1後	1		1		1	2	3		0
	日常生活援助展開実習	1後	1		1		10	3			2
	看護過程展開実習	2前	2		1		1	10	3		2
	成人看護学概論	1後	1		1	1	1				1
	急性期看護論	3前	2		1		2				2
	慢性期看護論	2前	2			2	1				1
	成人・老年看護実践論	3前	2		1	1	2	3	1		2
	成人看護学実習 I (急性期)	3後	2		1	2	2				2
	成人看護学実習 II (慢性期)	3後	2		1	2	3				3
	成人看護学実習 III (終末期)	3後	2		1	2	2				2

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					任・兼担
			1	2	3	1	2	3	4	5	
基礎分野	文化人類学	1前	1								1
	哲学	1前	1								1
	倫理学	1前	1								1
	社会学	1前	1								1
	法学	1後	1								1
	人間関係論	1前	1								1
	心理学	1前	1								1
	実用英語 I	1前	2								4
	実用英語 II	1後	2								4
	実用医療・看護英語	2前	2								4
	中国語	1前	1								1
	スペイン語	1前	1								1
	スポーツ科学	1後	2								1
	教育学	2前	2								1
	社会保障制度概論	2前	1								1
	災害ボランティア論	2後	1			1	1	1	2		1
	情報リテラシー	1前	1								1
	論理学	1前	1								1
	自然科学の基礎	1前	1			1	1	2			1
実践統計学	2前	2								1	
小計 (20科目)	-	15	11	0	1	1	1	2		18	
専門基礎	医療と法 (看護関係法規)	2前	1								1
	医学概論	1前	1								1
	解剖生理学 I	1前	2								1
	解剖生理学 II	1前	2								1
	病理学	1後	2								1
	生化学	1後	1								1
	微生物学	1前	1								1
	薬理学	1後	1								1
	疾病と治療 I (呼吸器系・消化器系)	1後	2								2
	疾病と治療 II (血液系・循環器系)	1後	2								2
	疾病と治療 III (神経系・骨筋系)	2前	2								2
	疾病と治療 IV (泌尿器系・生殖系・内分泌系)	2前	2		1						1
	疾病と治療 V (感覚器系・統合)	2後	2								1
	疾病と治療 VI (精神系)	2後	1								1
	臨床検査学演習	2後	1			1	1	2			1
	臨床栄養学演習	2後	1								1
	臨床薬理学演習	2後	1					1			1
	公衆衛生学	2前	2			1					1
	人間工学	2前	1								1
保健医療福祉システム論	2前	1				1				1	
政策医療論	2後	1					1			1	
医療・看護情報学の基礎	2前	1			1					1	
医療・看護論文の講読	2後	1			1					1	
小計 (23科目)	-	30	2	0	2	1	1	2		20	
基礎看護学	看護学概論	1前	1		1						1
	看護倫理	1後	1		1						1
	看護理論	2後	1		1		3				1
	看護学体験実習	1前	1		1		12	2			1
	看護実践技術論 I (日常生活における援助技術と判断)	1前	2		2		3				3
	看護実践技術論 II (治療・処置における援助技術と判断)	1後	1		2		3				3
	看護実践技術論 III (看護技術の統合)	1後	1		2		3				3
	ヘルスアセスメント	1前	1		2		3				3
	フィジカルアセスメント	1後	1		2		3				3
	看護過程と看護方法論	1後	1		2		3	0			0
	日常生活援助展開実習	1後	1		2		12	2			2
	看護過程展開実習	2前	2		2		12	2			2
	成人看護学概論	1後	1		1	1	1				1
	急性期看護論	3前	2		1		2				2
	慢性期看護論	2前	2			2	1				1
	成人・老年看護実践論	3前	2		2	1	2	2	2		2
	成人看護学実習 I (急性期)	3後	2		1	2	2				2
	成人看護学実習 II (慢性期)	3後	2		1	2	3				3
	成人看護学実習 III (終末期)	3後	2		1	1	2	2			2

分野	老年看護学概論	1後	1					1												
	老年期看護論	2前	1					1	1											
	老年看護実践論	2前	1					1	2											
	老年看護学実習Ⅰ（地域で暮らす高齢者の看護）	2後	2					1	1											
	老年看護学実習Ⅱ（病と生きる高齢者の看護）	3後	2						1											
	母性看護学概論	2後	2			1		1	1											
	母性看護実践論	3前	2			1		1	1											
	母性看護学実習	3後	2			1		1	1											
	小児看護学概論	2後	2			1		1	1											
	小児看護実践論	3前	2			1		1	1											
	小児看護学実習	3後	2			1		1	1											
	精神看護学概論	2後	1			1		1	1											
	精神看護実践論	3前	2			1		1	1											
	精神看護学実習	3後	2			1		1	1											
	臨床コミュニケーション論	2前	1			1		1	1											
	障害者看護論	3後	1			1		1	1											
	小計(37科目)	-	53			5		1	6	10										

分野	老年看護学概論	1後	1					1												
	老年期看護論	2前	1					1	1											
	老年看護実践論	2前	1					1	1	2										
	老年看護学実習Ⅰ（地域で暮らす高齢者の看護）	2後	2					1	1	1										
	老年看護学実習Ⅱ（病と生きる高齢者の看護）	3後	2						1											
	母性看護学概論	2後	2			1		1	1											
	母性看護実践論	3前	2			1		1	1											
	母性看護学実習	3後	2			1		1	1											
	小児看護学概論	2後	2			1		1	1											
	小児看護実践論	3前	2			1		1	1											
	小児看護学実習	3後	2			1		1	1											
	精神看護学概論	2後	1			1		1	1											
	精神看護実践論	3前	2			1		1	1											
	精神看護学実習	3後	2			1		1	1											
	臨床コミュニケーション論	2前	1			1		1	1											
	障害者看護論	3後	1			1		1	1											
	小計(37科目)	-	53			5		5	5	5										

卒業要件及び履修方法

「基礎分野」については15単位、「専門基礎分野」については30単位、「専門分野」については53単位、「統合分野」については25単位、上記4分野からの選択科目6単位の合計129単位以上とする。（履修科目の登録の上限：45単位(年間)）

卒業要件及び履修方法

「基礎分野」については15単位、「専門基礎分野」については30単位、「専門分野」については53単位、「統合分野」については25単位、上記4分野からの選択科目6単位の合計129単位以上とする。（履修科目の登録の上限：45単位(年間)）

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年	単位数		専任教員等の配置				
			1	2	1	2	3	4	
基礎分野	文化人類学	1前	1					1	
	哲学	1前	1					1	
	倫理学	1前	1					1	
	社会学	1前	1					1	
	法学	1後	1					1	
基礎分野	人間関係論	1前	1					1	
	心理学	1前	1					1	
	実用英語Ⅰ	1前	2					4	
	実用英語Ⅱ	1後	2					4	
	実用医療・看護英語	2前	2					4	
	中国語	1前	1					1	
	スペイン語	1前	1					1	
基礎分野	スポーツ科学	1後	2					1	
	教育学	2前	2					1	
	社会保障制度概論	2前	1					1	
	災害ボランティア論	2後	1		1	1	1	2	
基礎分野	情報リテラシー	1前	1					1	
	論理学	1前	1					1	
	自然科学の基礎	1前	1		1	1	2	1	
	統計学	2前	2					1	
小計(20科目)	-	15	11	0	1	1	1	2	18

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年	単位数		専任教員等の配置			
			1	2	1	2	3	4
基礎分野	文化人類学	1前	1					1
	哲学	1前	1					1
	倫理学	1前	1					1
	社会学	1前	1					1
	法学	1後	1					1
基礎分野	死生学	1後	1					1
	人間関係論	1前	1					1
	心理学	1前	1					1
	実用英語Ⅰ	1前	2					4
	実用英語Ⅱ	1後	2					4
	実用医療・看護英語	2前	2					4
	中国語	1前	1					1
基礎分野	スペイン語	1前	1					1
	スポーツ科学	1後	2					1
	教育学	2前	2					1
	社会保障制度概論	2前	1					1
基礎分野	災害ボランティア論	2後	1		1	1	1	2
	情報リテラシー	1前	1					1
	論理学	1前	1					1
	自然科学の基礎	1前	1		1	1	1	1
実践統計学	1後	2					1	

****		医療と法（看護関係法規）	2前	1						1
専門基礎分野	医学概論	1前	1							1
	解剖生理学 I	1前	2							1
	解剖生理学 II	1前	2							1
	病理学	1後	2							1
	生化学	1後	1							1
	微生物学	1前	1							1
	薬理学	1後	1							1
	疾病と治療 I（呼吸器系・消化器系）	1後	2							2
	疾病と治療 II（血液系・循環器系）	1後	2							2
	疾病と治療 III（神経系・骨筋系）	2前	2							2
	疾病と治療 IV（泌尿器系・生殖系・内分泌系）	2前	2		1					1
	疾病と治療 V（感覚器系・統合）	2後	2							1
	疾病と治療 VI（精神系）	2後	1							1
	臨床検査学演習	2後	1			1	1	2		
	臨床栄養学演習	2後	1							1
	臨床薬理学演習	2後	1			1	1	2		
	公衆衛生学	2前	2			1	1	1		
	人間工学	2前		1						1
	保健医療福祉システム論	2前		1		1				1
	政策医療論	2後	1			1				
医療・看護情報学の基礎	2前	1			1					
医療・看護論文の講読	2後	1			1					
小計（23科目）	-	30	2	0	2	1	1	2		20
基礎看護学	看護学概論	1前	1		1					
	看護倫理	1後	1		1					
	看護理論	2後	1		2	1	3			
	看護学体験実習	1前	1		2	1	12	2		
	看護実践技術論 I（日常生活における援助技術と判断）	1前	2		2	1	3			
	看護実践技術論 II（治療・処置における援助技術と判断）	1後	1		2	1	3			
	看護実践技術論 III（看護技術の統合）	1後	1		2	1	3			
	ヘルスアセスメント	1前	1		2	1	3			
	フィジカルアセスメント	1後	1		2	1	3			
	看護過程と看護方法論	1後	1		2	1	3	0		
日常生活援助展開実習【臨】	1後	1		2	1	12	2			
看護過程展開実習	2前	2		2	1	12	2			
臨床看護学	成人看護学概論	1後	1		1	1	1			
	急性期看護論	3前	2		1		2			
	慢性期看護論	2前	2		1	1				
	成人・老年看護実践論	3前	2		2	2	2	2		
	成人看護学実習 I（急性期）	3後	2		1	2	2	1		
	成人看護学実習 II（慢性期）	3後	2		1	2	3	1		
	成人看護学実習 III（終末期）	3後	2		1	1	2	2	1	
	老年看護学概論	1後	1		1					
	老年期看護論	2前	1		1	1	1			
	老年看護実践論	2前	1		1	1	2			
	老年看護学実習 I（地域で暮らす高齢者の看護）	2後	2		1	1	1	2		
	老年看護学実習 II（病と生きる高齢者の看護）	3後	2		1	2	2	1		
	母性看護学概論	2後	2		1	1	1			
	母性看護実践論	3前	2		1	1	1			
	母性看護学実習	3後	2		1	1	1			
	小児看護学概論	2後	2		1	1		1		
	小児看護実践論	3前	2		1	1		1		
	小児看護学実習	3後	2		1	1		1		
	精神看護学概論	2後	1		1	1		1		
	精神看護実践論	3前	2		1	1		1		
精神看護学実習	3後	2		1	1		1			
臨床コミュニケーション論	2前	1		1	1		1			
障害者看護論	3後	1		1	1		1			
小計（37科目）	-	53			5	5	5	12	2	0

****		小計（21科目）	-	16	3	0	1	1	1	2	16
専門基礎分野	医療と法（看護関係法規）	2前	1								1
	医学概論	1前	1								1
	解剖生理学 I	1前	2								1
	解剖生理学 II	1前	2								1
	病理学	1後	2								1
	生化学	1後	1								1
	微生物学	1前	1								1
	薬理学	1後	1								1
	疾病と治療 I（呼吸器系・消化器系）	1後	2								2
	疾病と治療 II（血液系・循環器系）	1後	2								2
	疾病と治療 III（神経系・骨筋系）	2前	2								1
	疾病と治療 IV（泌尿器系・生殖系・内分泌系）	2前	2				1				2
	疾病と治療 V（感覚器系・統合）	2後	2								2
	疾病と治療 VI（精神系）	2後	1								1
	臨床検査学演習	2後	1								1
	臨床栄養学演習	2後	1								1
	臨床薬理学演習	2後	1								1
	臨床検査学演習	2後	1								1
	疫学・保健統計	1後	1								1
	公衆衛生学	2前	2								1
人間工学	2前		1							1	
保健医療福祉システム論	2前		1							1	
政策医療論	2後	1								1	
医療・看護情報学の基礎	2前	1								1	
医療・看護論文の講読	2後	1								1	
小計（24科目）	-	32	1	0	2	1	1	2		16	
基礎看護学	看護学概論	1前	1				1				
	看護倫理	1後	1				1				
	看護理論	2後	1				1	1	1	1	
	看護学体験実習	1前	1				1	1	1	9	1
	看護実践技術論 I（日常生活における援助技術と判断）	1前	2				1	1	1	3	
	看護実践技術論 II（治療・処置における援助技術と判断）	1後	1				1	1	1	1	
	看護実践技術論 III（看護技術の統合）	1後	1				1	1	1	1	
	ヘルスアセスメント	1前	1				1	1	1	3	
	コミュニケーション技法	1後	1				1				
	フィジカルアセスメント	1後	1				1				
臨床看護学	看護過程と看護方法論	1後	1				1	1	1	1	
	日常生活援助展開実習	1後	1				1	1	1	9	1
	看護過程展開実習	2前	2				1	1	1	9	1
	家族看護学	2前	1				1	1	1	1	
	地域・在宅看護学概論	1後	1				1	1	1	1	
	地域・在宅看護学支援論	2後	2				1				
	地域・在宅看護実践論 I（在宅における看護技術と危機管理）	3後	1				1	1	1	1	
	地域・在宅看護実践論 II（地域におけるケアシステムと連携）	4前	1				1	1	2		
	地域・在宅看護学実習	4前	2				1	1	2		
	自立支援教育論	2後	1				1	1		1	
疾病予防看護学	2後	1				1	1	2			
専門分野	成人看護学概論	1後	1				1	1	1		
	急性期看護論	3前	2				1	1	2		
	慢性期看護論	2前	2				1	1			
	成人看護/老年看護実践論（A成人看護論・B老年看護論）	3前	2				1	2	3	2	2
	成人看護学実習 I（急性期）	3後	2				1	1	2		
	成人看護学実習 II（慢性期）	3後	2				1	3	1		
	老年看護学概論	1後	1				1	1	2		
	老年期看護論	2前	1				1	2			
	老年看護実践論	2前	1				1	2	2		
	老年看護学実習 I（地域で暮らす高齢者の看護）	2後	2				1	1	2		
老年看護学実習 II（病と生きる高齢者の看護）	3後	2				1	2	2	1		
母性看護学概論	2後	2				1	1	1			
母性看護実践論	3前	2				1	1	1			

在宅看護学	家族看護学	2後	1			1		1	2												
	在宅看護学概論	3前	2			1		1	2												
	在宅看護実践論Ⅰ (在宅における看護技術と危機管理)	3後	1			1		1	2												
	在宅看護実践論Ⅱ (地域におけるケアシステムと連携)	4前	1			1		1	2												
	在宅看護学実習	4前	2			1		1	2												
	地域看護学	地域看護学概論	2後	1			1		1	2											
		自立支援教育論	2後	1			1		1	2											
		疾病予防看護学	2後	1			1		1	2											
	災害看護学	災害看護学Ⅰ	1前	1			1														
		災害看護学Ⅱ	2後	1			2		1	2	1										
災害看護学Ⅲ		3前	2			2	2	1	2												
災害看護学実習		4前	1			8	3	6	12												
看護研究	看護研究の基礎	3前	1			7	1	1	2												
	英語論文のクリティーク	3後	1			7	4	7	10												
	災害看護学に関する卒業研究	4通	3			8	4	7	10												
	看護管理学	3前	1			1															
統合看護学	医療安全学	3前	1			1		2	1												
	国際看護学	3前	1			1	1	1	3												
	看護学統合実習	4前	2			9	4	7	10												
	コミュニティ形成論	4後	1			1	1														
	チーム医療論	4後	1			1	1		1	1											
	看護職とキャリア形成	4後	1			1															
	看護教育学	4後	1			1			1												
	看護政策論	4後	1			1															
	小計(22科目)	-	25	5	0	9	3	6	12	0	1										
	合計(102科目)	-	123	18	0	9	3	6	12	2	39										

卒業要件及び履修方法

「基礎分野」については15単位、「専門基礎分野」については30単位、「専門分野」については53単位、「統合分野」については25単位、上記4分野からの選択科目6単位の合計129単位以上とする。(履修科目の登録の上限: 45単位(年間))

在宅看護学	母性看護学実習	3後	2			1		1	1											
	小児看護学概論	2後	2			1		1	1											
	小児看護実践論	3前	2			1		1	1											
	小児看護学実習	3後	2			1		1	1											
	精神保健	2前	1																	
	精神看護学概論	2後	1			1	1		1											
	精神看護実践論	3前	2			1	1		1											
	精神看護学実習	3後	2			1	1		1											
	障害看護学	3後	1			1	1		1											
	小計(43科目)	-	62			6	6	7	9	1	0									
災害看護学	災害看護学Ⅰ	1前	1			1														
	災害看護学Ⅱ	2後	1			2		1	2											
	災害看護学Ⅲ	3前	2			2	2	1	2											
	災害看護学実習	4前	1																	
看護研究	看護研究の基礎	3前	1					1	1	2										
	英語論文のクリティーク	3後	1			6	4	7	9											
	災害看護学に関する卒業研究	4通	3																	
統合看護学	看護管理学	3前	1			1														
	医療安全学	3前	1			1		2	1											
	国際看護学	3前	1			1	1	1	3											
	看護学統合実習	4前	2			9	4	7	10											
	コミュニティ形成論	4後	1			1	1													
	チーム医療論	4後	1			1	1		1	1										
	看護職とキャリア形成	4後	1			1														
	看護教育学	4後	1			1			1											
	看護政策論	4後	1			1														
	小計(16科目)	-	15	2	0	6	6	7	9	1	0									
合計(104科目)	-	125	5	0	9	3	6	12	2	32										

卒業要件及び履修方法

「基礎分野」については16単位、「専門基礎分野」については32単位、「専門分野」については77単位、上記3分野からの選択科目5単位の合計130単位以上とする。(履修科目の登録の上限: 45単位(年間))

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	記号	単位数			専任教員等の配置			単位
			前	中	後	専任	非常勤	他	
基礎分野	文化人類学	1前	1						1
	哲学	1前	1						1
	倫理学	1前	1						1
	社会学	1前	1						1
	法学	1後	1						1
	死生学	1後	1						1
	人間関係論	1前	1						1
	心理学	1前	1						1
	実用英語Ⅰ	1前	2				1		3
	実用英語Ⅱ	1後	2				1		3
実用医療・看護英語	2前	2				1		3	
中国語	1前	1						1	
スペイン語	1前	1						1	
専門基礎分野	スポーツ科学	1後	2						1
	教育学	2前	2						1
	社会保障制度概論	2前	1						1
	災害ボランティア論	2後	1			1			1
看護学専攻	情報リテラシー	1前	1						1
	論理学	1前	1						1
	自然科学の基礎	1前	1			1	1	2	
	実践統計学	1後	2			1	1	2	
小計(21科目)	-	16	3	0	1	2	3		18
専門基礎分野	医療と法(看護関係法規)	2前	1						1
	医学概論	1前	1			1			
	解剖生理学Ⅰ	1前	2			1			2
	解剖生理学Ⅱ	1前	2						1
	病理学	1後	2						4
	生化学	1後	1						1
	微生物学	1前	1						1
	薬理学	1後	1						1
	疾病と治療Ⅰ(呼吸器系・消化器系)	1後	2						2
	疾病と治療Ⅱ(血液系・循環器系)	1後	2						3
	疾病と治療Ⅲ(神経系・骨筋系)	2前	2						3
	疾病と治療Ⅳ(泌尿器系・生殖器系・内分泌系)	2前	2						1
	疾病と治療Ⅴ(感覚器系・統合)	2後	2						1
	疾病と治療Ⅵ(精神系)	2後	1						1
	臨床栄養学演習	2後	1						1
	臨床薬理学演習	2後	1			1	1	2	
	臨床検査学演習	2後	1				1	2	
疫学・保健統計	1後	1			1	1	2		
公衆衛生学	2前	2			1	1	2		
人間工学	2前	1						1	

【令和5年度】

【単位：名】

- ・実用英語Ⅰ：専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」、「兼任・兼任4」から「兼任・兼任3」に変更。
- ・実用英語Ⅱ：専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」、「兼任・兼任4」から「兼任・兼任3」に変更。
- ・実用医療・看護英語：専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」、「兼任・兼任4」から「兼任・兼任3」に変更。
- ・自然科学の基礎：専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「講師1」から「講師2」、「助教1」から「助教0」に変更。
- ・実践統計学：専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「准教授0」から「准教授1」、「講師0」から「講師1」、「兼任・兼任1」から「兼任・兼任0」に変更。
- ・医学概論：専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「兼任・兼任1」から「兼任・兼任0」に変更。
- ・解剖生理学Ⅰ：専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・病理学：専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任4」に変更。
- ・疾病と治療Ⅱ（血液系・循環器系）：専任教員等の配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任3」に変更。
- ・疾病と治療Ⅲ（神経系・骨筋系）：専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任3」に変更。
- ・臨床薬理学演習：専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「准教授0」から「准教授1」、「講師0」から「講師2」、「兼任・兼任1」から「兼任・兼任0」に変更。
- ・臨床検査学演習：専任教員等の配置を「講師1」から「講師2」、「助教1」から「助教0」に変更。
- ・疫学・保健統計：専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「講師0」から「講師2」、「兼任・兼任1」から「兼任・兼任0」に変更。
- ・公衆衛生学：専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「講師2」から「講師1」、「助教1」から「助教0」に変更。
- ・保健医療福祉システム論：専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」、「講師2」から「講師1」、「助教1」から「助教0」に変更。
- ・政策医療論：専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」、「講師0」から「講師2」に変更。
- ・医療・看護情報学の基礎：専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「講師0」から「講師2」に変更。
- ・医療・看護論文の講読：専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「講師1」から「講師2」、「助教2」から「助教0」に変更。
- ・看護理論：専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」、「講師1」から「講師0」、「助教1」から「助教0」に変更。
- ・看護学体験実習：専任教員等の配置を「講師1」から「講師2」、「助教9」から「助教0」、「助手1」から「助手2」に変更。
- ・看護実践技術論Ⅰ（日常生活における援助技術と判断）：専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」、「講師1」から「講師2」、「助教2」から「助教1」に変更。
- ・看護実践技術論Ⅱ（治療・処置における援助技術と判断）：専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」、「講師1」から「講師2」、「助教2」から「助教1」に変更。
- ・看護実践技術論Ⅲ（看護技術の統合）：専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」、「講師1」から「講師2」、「助教2」から「助教1」に変更。
- ・ヘルスアセスメント：専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」、「講師1」から「講師2」、「助教2」から「助教1」に変更。
- ・コミュニケーション技法：専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・フジカルアセスメント：専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」、「准教授0」から「准教授1」、「講師1」から「講師0」、「助教2」から「助教0」に変更。
- ・看護過程と看護方法論：専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」、「准教授0」から「准教授1」、「助教2」から「助教1」、「助手3」から「助教0」に変更。
- ・日常生活援助展開実習【臨】：専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」、「講師1」から「講師2」、「助教10」から「助教0」、「助手3」から「助教2」に変更。
- ・看護過程展開実習：専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」、「講師1」から「講師2」、「助教10」から「助教0」、「助手3」から「助教2」に変更。
- ・家族看護学：専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」、「准教授0」から「准教授1」、「講師1」から「講師0」、「助教2」から「助教0」に変更。
- ・地域・在宅看護学概論：専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」、「准教授0」から「准教授1」、「助教2」から「助教0」に変更。
- ・地域・在宅看護学支援論：専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」、「准教授0」から「准教授1」、「助教2」から「助教0」に変更。
- ・地域・在宅看護実践論Ⅰ（在宅における看護技術と危機管理）：専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・地域・在宅看護実践論Ⅱ（地域におけるケアシステムと連携）：専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」、「兼任・兼任0」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・地域・在宅看護学実習：専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」、「准教授0」から「准教授1」、「助教2」から「助教0」に変更。
- ・自立支援教育論：専任教員等の配置を「教授0」、「准教授0」から「准教授1」、「助教2」から「助教0」に変更。
- ・疾病予防看護学：専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」、「准教授0」から「准教授1」、「助教2」から「助教0」に変更。
- ・急性期看護論：専任教員等の配置を「講師0」から「助教2」から「助教0」に変更。
- ・慢性期看護論：専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「講師2」から「講師1」、「助教1」から「助教0」に変更。
- ・成人看護/老年看護実践論（A成人看護論、B老年看護論）：専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授2」、「講師2」から「講師1」、「助教3」から「助教2」に変更。
- ・成人看護学実習Ⅰ（急性期）：専任教員等の配置を「講師2」から「講師1」に変更。
- ・成人看護学実習Ⅱ（慢性期）：専任教員等の配置を「講師2」から「講師1」、「助教3」から「助教2」に変更。
- ・老年看護学概論：専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「准教授0」から「准教授1」、「講師1」から「講師0」に変更。
- ・老年看護実践論：専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」、「講師1」から「講師0」に変更。
- ・老年看護学実習Ⅰ（地域で暮らす高齢者の看護）：専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「准教授0」から「准教授1」、「講師1」から「講師0」に変更。
- ・老年看護学実習Ⅱ（病と生きる高齢者の看護）：専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」、「講師1」から「講師0」、「助教1」から「助教2」、「助手0」から「助手1」に変更。
- ・母性看護学概論：専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」、「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・母性看護実践論：専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」、「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・母性看護学実習：専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」、「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・小児看護学概論：専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」、「講師1」から「講師0」に変更。
- ・小児看護実践論：専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」、「講師1」から「講師0」に変更。
- ・小児看護学実習：専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」、「講師1」から「講師0」に変更。
- ・精神看護学概論：専任教員等の配置を「助教0」から「助教1」、「助手1」から「助手0」に変更。
- ・精神看護実践論：専任教員等の配置を「助教0」から「助教1」、「助手1」から「助手0」に変更。
- ・精神看護学実習：専任教員等の配置を「助教0」から「助教1」、「助手1」から「助手0」に変更。
- ・障害者看護論：専任教員等の配置を「助教0」から「助教1」、「助手1」から「助手0」に変更。
- ・災害看護学Ⅰ：専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」、「助教0」から「助教1」に変更。
- ・災害看護学Ⅱ：専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」、「講師1」から「講師2」、「助教2」から「助教0」に変更。
- ・災害看護学Ⅲ：専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」、「講師1」から「講師2」、「助教2」から「助教0」に変更。
- ・災害看護学Ⅳ：専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」、「講師1」から「講師2」、「助教2」から「助教0」に変更。
- ・災害看護学実習：専任教員等の配置を「教授6」から「教授1」、「准教授2」から「准教授1」、「講師8」から「講師2」、「助教10」から「助教1」に変更。
- ・看護研究の基礎：専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「講師1」から「講師2」、「助教1」から「助教0」に変更。
- ・災害看護学に関する卒業研究：専任教員等の配置を「教授7」から「教授5」、「准教授2」から「准教授7」、「講師8」から「講師9」、「助教10」から「助教5」に変更。
- ・看護管理学：専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「助教0」から「助教1」、「兼任・兼任1」から「兼任・兼任0」に変更。
- ・医療安全学：専任教員等の配置を「講師1」から「講師0」に変更。
- ・国際看護学：専任教員等の配置を「講師1」から「講師0」に変更。
- ・看護学統合実習：専任教員等の配置を「教授6」から「教授5」、「准教授2」から「准教授7」、「助教10」から「助教1」、「助教0」から「助教3」に変更。
- ・コミュニティ形成論：専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」、「准教授0」から「准教授1」、「兼任・兼任0」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・チーム医療論：専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「助教0」から「助教1」に変更。
- ・看護職とキャリア形成：専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「兼任・兼任1」から「兼任・兼任0」に変更。
- ・看護教育学：専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・看護政策論：専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「准教授0」から「准教授1」、「講師0」から「講師2」に変更。

【令和4年度】

【単位：名】

- ・実践統計学：専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・疫学・保健統計：専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・老年看護学概論：専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」、「講師0」から「講師1」に変更。
- ・老年期看護論：専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」に変更。
- ・老年看護実践論：専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」、「助教」から「助教1」に変更。
- ・母性看護学概論：専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・母性看護実践論：専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・精神看護学概論：専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」に変更。
- ・精神看護実践論：専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」に変更。
- ・障害者看護論：専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」に変更。
- ・コミュニケーション技法：専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・地域・在宅看護学概論：専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・家族看護学：専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・在宅看護学概論：専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・在宅看護実践論Ⅰ：専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・地域看護学概論：専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・自立支援教育論：専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・疾病予防看護学：専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・災害看護学Ⅱ：専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・看護管理学：専任教員等の配置を「助教」から「助教1」に変更。

【令和3年度】

【単位：名】

- ・「臨床薬理学演習」の専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」、「助教0」から「助教2」に変更。
- ・「公衆衛生学」の専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」、「助教0」から「助教1」に変更。
- ・「看護理論」の専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」に変更。
- ・「看護学体験実習」の専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」に変更。
- ・「看護実践技術論Ⅰ」「看護実践技術論Ⅱ」「看護実践技術論Ⅲ」「ヘルスアセスメント」「フィジカルアセスメント」の専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」に変更。
- ・「慢性期看護論」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「講師2」から「講師0」に変更。
- ・「成人看護学実習Ⅰ」「成人看護学実習Ⅱ」「成人看護学実習Ⅲ」の専任教員等の配置を「助手0」から「助手1」に変更。
- ・「老年看護学」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」、「准教授0」「准教授1」に変更。
- ・「老年看護実践論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」、「准教授0」「准教授1」に変更。
- ・「老年看護学実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」、「助教1」から「助教2」に変更。
- ・「老年看護学実習Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」、「准教授0」「准教授1」、「講師0」「講師2」、「助教1」から「助教2」「助手0」から「助手1」に変更。
- ・「災害看護学Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」、「助手0」から「助手1」に変更。
- ・「看護研究の基礎」の専任教員等の配置等を「教授8」から「教授7」、「助教1」から「助教2」に変更。
- ・「英語論文のクリティーク」の専任教員の配置を「教授7」、「准教授3」から「准教授4」、「講師3」から「講師4」「助教12」から「助教10」に変更。
- ・「災害看護学に関する卒業研究」の専任教員の配置を「准教授3」から「准教授4」、「講師6」から「講師7」、「助教12」から「助教10」に変更。
- ・「医療安全学」の専任教員の配置を「講師1」から「講師2」、「助教1」から「助教2」に変更。
- ・「国際看護学」の専任教員の配置を「教授0」から「教授1」、「助教2」から「助教3」に変更。
- ・「統合看護学実習」の専任教員等の配置を「准教授3」から「准教授4」、「講師6」「講師7」、「助教12」から「助教10」に変更。
- ・「チーム医療論」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」、「講師1」から「講師0」、「助手0」から「助手1」に変更。
- ・「看護政策論」の専任教員の配置を「助手0」から「助手1」に変更。

【令和2年度】

【単位：名】

- ・「災害ボランティア論」「自然科学の基礎」「臨床検査学演習」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教2」に変更。
- ・「臨床薬理学演習」の専任教員等の配置を「兼任1」から「准教授1」に変更。
- ・「政策医療論」の専任教員等の配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・「看護学体験実習」「看護実践技術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「ヘルスアセスメント」「フィジカルアセスメント」「看護過程と看護方法論」「日常生活展開実習」「看護過程展開実習」「成人・老年看護実践論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」に変更。
- ・「看護理論」「看護実践技術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「ヘルスアセスメント」「フィジカルアセスメント」「看護過程と看護方法論」の専任教員等の配置を「助教2」から「助教3」に変更。
- ・「看護学体験実習」「日常生活展開実習」「看護過程展開実習」の専任教員等の配置を「助教10」から「助教12」、「助手3」から「助手2」に変更。
- ・「看護過程と看護方法論」の専任教員等の配置を「助手3」から「助手0」に変更。
- ・「成人・老年看護実践論」の専任教員等の配置を「助教3」から「助教2」、「助手1」から「助手2」に変更。
- ・「精神看護学概論」「精神看護実践論」「精神看護学実習」「臨床コミュニケーション論」「障害看護論」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」、「助教0」から「助教1」に変更。
- ・「看護管理学」の専任教員等の配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・「医療安全学」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教2」に変更。
- ・「チーム医療論」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」、「助教0」から「助教1」に変更。
- ・「災害看護学実習」「英語論文のクリティーク」「看護学統合実習」の専任教員等の配置を「教授6」から「教授8」、「准教授2」から「准教授3」「講師3」から「講師6」、「助教10」から「助教12」に変更。
- ・「災害看護学に関する卒業研究」の専任教員等の配置等を「教授7」から「教授9」、「准教授2」から「准教授3」、「講師8」から「講師6」「助教10」から「助教12」に変更。

- (注) ・ 2 (1) 一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡潔書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
85 科目	17 科目	0 科目	102 科目	88 科目 [+3]	16 科目 [Δ1]	0 科目 []	104 科目 [+2]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：Δ1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	成人看護学実習Ⅲ	2	3		必修	高齢化が進み多死社会と言われる中で、看取りの場は多様化しつつ終末期看護における看護実践の修得は重要である。しかしながら、これまで3年次後期で成人看護学実習Ⅲとして終末期の実習を実施してきたが、2週間という限定的な実習期間の中で、終末期の患者を受け持ち看護過程の展開と実践を行うことが難しい状況にあることが課題であった。このため、1年次の基礎科目から終末期に関する4年間のカリキュラム全体を通して見直しを行った。その結果、1年次に「死生学」を必修科目として追加、成人・老年看護学の専門領域における各科目についての講義・演習・実習で終末期看護を強化する内容に変更した。また、終末期に関する講義・演習については、成人・老年看護学だけでなく、地域・在宅看護学領域においても講義・演習を行い、実習においても終末期の療養者に関する看護過程の展開の学習の機会をもつことができる。これらのことから、3年次後期の終末期実習を廃止するとともに、4年間を通して様々な場における終末期看護を学ぶことが可能と判断した。
2	臨床コミュニケーション	1	2		必修	医療において対象との関係性の構築や対象理解のための基盤となる技術の1つとして、コミュニケーションスキルを体験的に学習する科目と位置づけられていた。 新カリキュラムにおいては、コミュニケーションの強化が課題のひとつであった。このため、基礎看護学領域の科目の構成を見直し、1年次後期に「コミュニケーション技法（必修・1単位30時間）」の科目を新設し、「臨床コミュニケーション」を廃止した。 なお、臨床コミュニケーションには、精神看護学の基礎となる治療的コミュニケーションの内容も含まれていたが、治療的コミュニケーションのリフレクションから自己の課題を説明することができるなどの学習内容は、2年次に「精神保健」を新設し、「精神看護学概論」「精神看護実践論」「精神看護学実習」と系統的に学習をする中に学習内容を位置付けた。 コミュニケーション技術は重要であり、1年次の早い時期から演習・実習を運動させることで技術の修得につながれると考える。
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

履修案内にカリキュラム系統図および履修科目の一覧を掲載し、入学時のカリキュラムガイダンスにおいて、説明を行っている。
--

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{2}{102} = \boxed{1.96} \%$$

数式が入力されています。

- (注)
- ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
 - ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 新学部設置に係る 借用面積:4,030.24㎡ 借用期間:32年			
	校舎敷地	37,384 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	37,384 ㎡				
	運動場用地	10,503 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	10,503 ㎡				
	小 計	47,887 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	47,887 ㎡				
	そ の 他	4,597 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	4,597 ㎡				
	合 計	52,484 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	52,484 ㎡				
(2) 校 舎	専 用	53,093 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	53,093 ㎡	大学全体 新学部設置に係る 借用面積:6,972.42㎡ 借用期間:32年			
	(53,093 ㎡)	(0 ㎡)	(0 ㎡)	(53,093 ㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	7室	12室	4室	3室 (補助職員 人)	室 (補助職員 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	立川看護学部 看護学科			25 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体での 共用分を含む 電子ジャーナル 全キャンパス閲覧可	
	立川看護学部 看護学科	20,000 [100] (18,109 [69]) (20,005 [71])	64 [3] (68 [3]) (73 [4])	3,580 [2,240] 4,331 [2,889] 4,481 [2,918]	470 (456) (538)	3,601 (2,781)	95 (95)		
	計	20,000 [100] (18,109 [69]) (20,000 [71])	64 [3] (68 [3]) (73 [4])	3,580 [2,240] 4,331 [2,889] 4,481 [2,918]	470 (456) (538)	2,781 (2,781)	95 (95)		
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数				
	286 ㎡		49 席		11,111 冊				
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要						
	520㎡								
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当り研究費等	400千円	400千円	図書購入費	30,000千円	6,000千円	60,000千円	
	共同研究費等	7,000千円	7,000千円	設備購入費	248,500千円	295,000千円	360,000千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,850千円	1,600千円	1,600千円	1,550千円	— 千円	— 千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要								

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況 本年度A Cの対象となる学部学科等については、必ず下線を引いてください。

大学の名称	東京医療保健大学										1	1	1	1
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考	
	年	人	年次人	人		倍	倍	倍	倍	年度	年度			
医療保健学部		280	—	1,120										
看護学科	4	100	—	400	学士(看護学)	1.16	—	1.13	—	—	平成17年度	五反田キャンパス 東京都品川区東五反田4-1-17	令和2年度より募集停止	
医療栄養学科	4	100	—	400	学士(栄養学)	0.82	—	0.72	—	—	平成17年度	世田谷キャンパス 東京都世田谷区世田谷3-11-3		
医療情報学科	4	80	—	320	学士(医療情報学)	0.83	—	0.82	—	—	平成17年度	世田谷キャンパス 東京都世田谷区世田谷3-11-3		
東が丘・立川看護学部		200	—	0		—	—	—	—	—				
看護学科	4	200	—	0	学士(看護学)	—	—	—	—	—	平成22年度	国立病院機構キャンパス 東京都目黒区東が丘2-5-1		
											平成28年度	国立病院機構立川キャンパス 東京都立川市藤町3256		
東が丘看護学部		100		300										
看護学科	4	100	—	300	学士(看護学)	1.18	—	1.13	—	—	令和2年度	国立病院機構キャンパス 東京都目黒区東が丘2-5-1		
立川看護学部		100		300										
看護学科	4	100	—	300	学士(看護学)	1.19	—	1.15	—	—	令和2年度	国立病院機構 立川キャンパス 東京都立川市 藤町3256		
千葉看護学部		100	—	400										
看護学科	4	100	—	400	学士(看護学)	1.18	—	1.16	—	—	平成30年度	船橋キャンパス 千葉県船橋市 船橋西1-		
和歌山看護学部		90	—	360										
看護学科	4	90	—	360	学士(看護学)	1.13	—	1.13	—	—	平成30年度	藤原キャンパス 和歌山県和歌山市東ノ上丁 3番地 日弁和歌山西 條センター キャンパス 和歌山県和歌 山市小松原通 4-20		

- (注)・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。(様式のうち、記載する必要がない学校種は削除してください)。
- ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度A Cの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「—」としてください。
 - ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 - ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「—」としてください。
 - ・「平均入学定員超過率(控除後含む)」及び「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず本字にしてください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<立川看護学部 看護学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和2年度】		【令和3年度】		【令和4年度】		【令和5年度】	
担任・兼任の別	氏名 (年齢) <担任(予定)年月> 保有学位等	担任・兼任の別	氏名 (年齢) <担任(予定)年月> 保有学位等	担任・兼任の別	氏名 (年齢) <担任(予定)年月> 保有学位等	担任・兼任の別	氏名 (年齢) <担任(予定)年月> 保有学位等
専 任	藤田 順子 (76) <平成27年4月> 博士(災害看護学)	専 任	藤田 順子 (76) <令和2年4月> 博士(人間科学)	専 任	藤田 順子 (76) <令和2年4月> 博士(人間科学)	専 任	藤田 順子 (76) <令和2年4月> 博士(人間科学)
専 任	山西 文子 (75) <平成33年4月>	専 任	山西 文子 (75) <令和2年4月> 博士(人間科学)	専 任	山西 文子 (75) <令和2年4月> 博士(人間科学)	専 任	山西 文子 (75) <令和2年4月> 博士(人間科学)
専 任	岩間 裕子 (59) <平成27年4月> 博士(経営学)	専 任	岩間 裕子 (59) <令和2年4月> 博士(経営学)	専 任	岩間 裕子 (59) <令和2年4月> 博士(経営学)	専 任	岩間 裕子 (59) <令和2年4月> 博士(経営学)
専 任	久保 裕子 (55) <平成27年4月> 博士(保健医療学)	専 任	久保 裕子 (55) <令和2年4月> 博士(保健医療学)	専 任	久保 裕子 (55) <令和2年4月> 博士(保健医療学)	専 任	久保 裕子 (55) <令和2年4月> 博士(保健医療学)
専 任	坂井 弘子 (62) <平成32年4月> 博士(看護学)	専 任	坂井 弘子 (62) <令和2年4月> 博士(看護学)	専 任	坂井 弘子 (62) <令和2年4月> 博士(看護学)	専 任	坂井 弘子 (62) <令和2年4月> 博士(看護学)
専 任	堀田 暲江 (66) <平成27年4月> 博士(看護学)	専 任	堀田 暲江 (66) <令和2年4月> 博士(看護学)	専 任	堀田 暲江 (66) <令和2年4月> 博士(看護学)	専 任	堀田 暲江 (66) <令和2年4月> 博士(看護学)
専 任	村松 仁 (53) <平成27年4月> 博士(看護学)	専 任	村松 仁 (53) <令和2年4月> 博士(看護学)	専 任	村松 仁 (53) <令和2年4月> 博士(看護学)	専 任	村松 仁 (53) <令和2年4月> 博士(看護学)
専 任	青木 和恵 (65) <令和2年4月> 博士(看護学)	専 任	青木 和恵 (65) <令和2年4月> 博士(看護学)	専 任	青木 和恵 (65) <令和2年4月> 博士(看護学)	専 任	青木 和恵 (65) <令和2年4月> 博士(看護学)
専 任	長田 真子 (64) <令和4年6月> 博士(看護学)	専 任	長田 真子 (64) <令和4年6月> 博士(看護学)	専 任	長田 真子 (64) <令和4年6月> 博士(看護学)	専 任	長田 真子 (64) <令和4年6月> 博士(看護学)
専 任	内田 貴博 (58) <令和5年4月> 博士(保健医療学)	専 任	内田 貴博 (58) <令和5年4月> 博士(保健医療学)	専 任	内田 貴博 (58) <令和5年4月> 博士(保健医療学)	専 任	内田 貴博 (58) <令和5年4月> 博士(保健医療学)
専 任	久保 裕子 (55) <令和2年4月> 博士(保健医療学)	専 任	久保 裕子 (55) <令和2年4月> 博士(保健医療学)	専 任	久保 裕子 (55) <令和2年4月> 博士(保健医療学)	専 任	久保 裕子 (55) <令和2年4月> 博士(保健医療学)
専 任	坂井 弘子 (62) <令和2年4月> 博士(看護学)	専 任	坂井 弘子 (62) <令和2年4月> 博士(看護学)	専 任	坂井 弘子 (62) <令和2年4月> 博士(看護学)	専 任	坂井 弘子 (62) <令和2年4月> 博士(看護学)
専 任	堀田 暲江 (66) <平成27年4月> 博士(看護学)	専 任	堀田 暲江 (66) <令和2年4月> 博士(看護学)	専 任	堀田 暲江 (66) <令和2年4月> 博士(看護学)	専 任	堀田 暲江 (66) <令和2年4月> 博士(看護学)
専 任	村松 仁 (53) <平成27年4月> 博士(看護学)	専 任	村松 仁 (53) <令和2年4月> 博士(看護学)	専 任	村松 仁 (53) <令和2年4月> 博士(看護学)	専 任	村松 仁 (53) <令和2年4月> 博士(看護学)
専 任	青木 和恵 (65) <令和2年4月> 博士(看護学)	専 任	青木 和恵 (65) <令和2年4月> 博士(看護学)	専 任	青木 和恵 (65) <令和2年4月> 博士(看護学)	専 任	青木 和恵 (65) <令和2年4月> 博士(看護学)
専 任	長田 真子 (64) <令和4年6月> 博士(看護学)	専 任	長田 真子 (64) <令和4年6月> 博士(看護学)	専 任	長田 真子 (64) <令和4年6月> 博士(看護学)	専 任	長田 真子 (64) <令和4年6月> 博士(看護学)
専 任	内田 貴博 (58) <令和5年4月> 博士(保健医療学)	専 任	内田 貴博 (58) <令和5年4月> 博士(保健医療学)	専 任	内田 貴博 (58) <令和5年4月> 博士(保健医療学)	専 任	内田 貴博 (58) <令和5年4月> 博士(保健医療学)

担当・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(卒業)年月> 保任学号等	担当授業科目名	担当・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(卒業)年月> 保任学号等	担当授業科目名	担当・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(卒業)年月> 保任学号等	担当授業科目名
専 講師		堀田 典吉 (54) <平成27年4月> 博士(看護学)	フィジカルアセスメント 看護実践 英語論文のクリティーク 災害看護学に関する卒業研究 看護学体験実習 日常生活活動観察実習 看護過程観察実習 災害看護学実習 看護学統合実習	専 講師		堀田 典吉 (54) <令和2年4月> 博士(看護学)	自然科学の基礎 臨床検査学実習 災害ボウランティアル論 国際看護学 医療安全学 看護研究の基礎 災害看護学 英語論文のクリティーク 災害看護学に関する卒業研究 災害看護学実習 看護学統合実習	専 講師		堀田 典吉 (54) <令和2年4月> 博士(看護学)	自然科学の基礎 臨床検査学実習 災害ボウランティアル論 国際看護学 医療安全学 看護研究の基礎 災害看護学 英語論文のクリティーク 災害看護学に関する卒業研究 災害看護学実習 看護学統合実習
専 助教		今井 理子 (39) <平成27年4月> 修士(看護学)	自然科学の基礎 臨床検査学実習 災害ボウランティアル論 国際看護学 医療安全学 看護研究の基礎 災害看護学 英語論文のクリティーク 災害看護学に関する卒業研究 災害看護学実習 看護学統合実習	専 助教		今井 理子 (39) <令和2年4月> 修士(看護学)	自然科学の基礎 臨床検査学実習 災害ボウランティアル論 国際看護学 医療安全学 看護研究の基礎 災害看護学 英語論文のクリティーク 災害看護学に関する卒業研究 災害看護学実習 看護学統合実習	専 助教		今井 理子 (41) <令和2年4月> 修士(看護学)	自然科学の基礎 看護実践技術論 ヘルスケアアセスメント 英語論文のクリティーク 災害看護学に関する卒業研究 災害看護学実習 看護学統合実習 看護過程観察実習 看護学体験実習 看護学統合実習
専 助教		小川 真直 (33) <令和2年4月> 修士(看護学)	臨床コミュニケーション論 精神看護学実習 精神看護学実習 英語論文のクリティーク チーム医療論 災害看護学に関する卒業研究 精神看護学実習 災害看護学実習 看護学統合実習	専 助教		小川 真直 (33) <令和2年4月> 修士(看護学)	臨床コミュニケーション論 精神看護学実習 精神看護学実習 英語論文のクリティーク チーム医療論 災害看護学に関する卒業研究 精神看護学実習 災害看護学実習 看護学統合実習	専 助教		小川 真直 (35) <令和2年4月> 修士(看護学)	精神看護学 精神看護学実習 精神看護学実習 英語論文のクリティーク チーム医療論 災害看護学に関する卒業研究 精神看護学実習 チーム医療論 精神看護学実習 看護学統合実習
専 助教		河田 明子 (53) <平成27年4月> 博士(看護学)	老年看護学実習 慢性期看護論 急性期看護論 成人・老年看護学実習 英語論文のクリティーク 災害看護学に関する卒業研究 看護学体験実習 日常生活活動観察実習 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅲ 災害看護学実習 看護学統合実習	専 助教		河田 明子 (53) <令和2年4月> 博士(看護学)	老年看護学実習 慢性期看護論 急性期看護論 成人・老年看護学実習 英語論文のクリティーク 災害看護学に関する卒業研究 看護学体験実習 日常生活活動観察実習 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅲ 災害看護学実習 看護学統合実習	専 助教		河田 明子 (54) <令和2年4月> 博士(看護学)	急性期看護論 国際安全学 成人・老年看護学実習 英語論文のクリティーク 災害看護学に関する卒業研究 看護学体験実習 日常生活活動観察実習 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅲ 災害看護学実習 看護学統合実習
専 助教		折元 美雪 (52) <平成27年4月> 修士(看護学)	老年看護学実習 老年看護学実習 成人・老年看護学実習 英語論文のクリティーク 災害看護学に関する卒業研究 看護学体験実習 日常生活活動観察実習 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅲ 災害看護学実習 看護学統合実習	専 助教		折元 美雪 (52) <令和2年4月> 修士(看護学)	老年看護学実習 老年看護学実習 成人・老年看護学実習 英語論文のクリティーク 災害看護学に関する卒業研究 看護学体験実習 日常生活活動観察実習 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅲ 災害看護学実習 看護学統合実習	専 助教		折元 美雪 (52) <令和2年4月> 修士(看護学)	老年看護学実習 老年看護学実習 成人・老年看護学実習 英語論文のクリティーク 災害看護学に関する卒業研究 看護学体験実習 日常生活活動観察実習 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅲ 災害看護学実習 看護学統合実習
専 助教		藤林 好子 (49) <平成27年4月> 修士(看護学)	ヘルスケアアセスメント 看護実践技術論Ⅰ 看護実践技術論Ⅱ 看護実践技術論Ⅲ フィジカルアセスメント 看護過程と看護方法論 看護実践 英語論文のクリティーク 災害看護学に関する卒業研究 看護学体験実習 日常生活活動観察実習 看護過程観察実習 災害看護学実習 看護学統合実習	専 助教		藤林 好子 (49) <令和2年4月> 修士(看護学)	ヘルスケアアセスメント 看護実践技術論Ⅰ 看護実践技術論Ⅱ 看護実践技術論Ⅲ フィジカルアセスメント 看護過程と看護方法論 看護実践 英語論文のクリティーク 災害看護学に関する卒業研究 看護学体験実習 日常生活活動観察実習 看護過程観察実習 災害看護学実習 看護学統合実習	専 助教		野野 由貴子 (32) <令和2年4月> 修士(看護学)	ヘルスケアアセスメント 看護実践技術論Ⅰ 看護実践技術論Ⅱ 看護実践技術論Ⅲ フィジカルアセスメント 看護過程と看護方法論 看護実践 英語論文のクリティーク 災害看護学に関する卒業研究 看護学体験実習 日常生活活動観察実習 看護過程観察実習 災害看護学実習 看護学統合実習
専 助教		小山 珠美 (52) <平成27年4月> 修士(看護学)	疾病予防看護学 自立支援看護論 災害看護学Ⅰ 家族看護学 地域看護学概論 在宅看護学概論 在宅看護学実習Ⅰ 英語論文のクリティーク 在宅看護学実習Ⅱ 災害看護学に関する卒業研究 看護学体験実習 日常生活活動観察実習 看護過程観察実習 災害看護学実習 看護学統合実習	専 助教		小山 珠美 (52) <令和2年4月> 修士(看護学)	疾病予防看護学 自立支援看護論 災害看護学Ⅰ 家族看護学 地域看護学概論 在宅看護学概論 在宅看護学実習Ⅰ 英語論文のクリティーク 在宅看護学実習Ⅱ 災害看護学に関する卒業研究 看護学体験実習 日常生活活動観察実習 看護過程観察実習 災害看護学実習 看護学統合実習	専 助教		尾谷 真弓 (48) <平成27年4月> 修士(看護学)	成人・老年看護学実習 看護学実習 看護学実習 英語論文のクリティーク 災害看護学に関する卒業研究 看護学体験実習 日常生活活動観察実習 看護過程観察実習 在宅看護学実習 災害看護学実習 看護学統合実習
専 助教		大嶋 久美 (46) <平成27年4月> 修士(看護学)	小児看護学概論 英語論文のクリティーク 災害看護学に関する卒業研究 看護学体験実習 日常生活活動観察実習	専 助教		大嶋 久美 (46) <令和2年4月> 修士(看護学)	ヘルスケアアセスメント 看護実践技術論Ⅰ 看護実践技術論Ⅱ 看護実践技術論Ⅲ 老年看護学実習 災害看護学実習	専 助教		大嶋 久美 (40) <令和2年4月> 修士(看護学)	看護実践技術論Ⅰ ヘルスケアアセスメント 老年看護学実習 災害看護学に関する卒業研究

肩書・ 兼任の 別	職名	氏名 (生 誕) <氏名(年齢) 年月> (保身学以等)	担当授業科目名	肩書・ 兼任の 別	職名	氏名 (生 誕) <氏名(年齢) 年月> (保身学以等)	担当授業科目名	肩書・ 兼任の 別	職名	氏名 (生 誕) <氏名(年齢) 年月> (保身学以等)	担当授業科目名	肩書・ 兼任の 別	職名	氏名 (生 誕) <氏名(年齢) 年月> (保身学以等)	担当授業科目名					
			保健看護学実習 災害看護学実習 看護学統合実習								英語論文のクリエーター 災害看護学に関する卒業研究 看護学実習実習 災害看護学実習 日常生活援助実践実習 看護学実習実習 災害看護学実習					看護学実習実習 災害看護学実習 看護学実習実習 英語論文のクリエーター 災害看護学実習				
		松山 妙子 (39) <平成32年4月> 博士(看護学)	ヘルスケアシステム 看護実践技術論Ⅰ 看護実践技術論Ⅱ フィジカルアセスメント 看護過程と看護方法論 看護理論 英語論文のクリエーター 災害看護学に関する卒業研究 看護学実習実習 日常生活援助実践実習 災害看護学実習 災害看護学実習 看護学統合実習								英語論文のクリエーター 災害看護学に関する卒業研究 看護学実習実習 災害看護学実習 看護学実習実習 日常生活援助実践実習 看護学実習実習 看護学統合実習						看護実践技術論Ⅰ ヘルスケアシステム 災害看護学に関する卒業研究 看護実践技術論Ⅱ 災害看護学実習実習 看護過程と看護方法論 看護理論 英語論文のクリエーター 災害看護学に関する卒業研究 看護学実習実習 日常生活援助実践実習 看護学実習実習 災害看護学実習 看護学統合実習			
		三浦 由紀子 (45) <平成32年4月> 博士(看護学)	自然科学の基礎 臨床検査学実習 災害看護学実習 英語論文のクリエーター 災害看護学に関する卒業研究 看護学実習実習 日常生活援助実践実習 災害看護学実習 災害看護学実習 看護学統合実習								臨床検査学実習 災害看護学実習実習 災害看護学実習 公衆衛生学 看護実践の基礎 急性期看護論 災害看護学実習 看護学実習実習 英語論文のクリエーター 災害看護学に関する卒業研究 災害看護学実習 看護学実習実習						公衆衛生学 看護・看護情報学の基礎 臨床検査学 急性期看護論 災害看護学実習 看護学実習実習 看護研究の基礎 国際看護学 災害看護学に関する卒業研究 自然科学の基礎 疫学・保健統計 臨床検査学実習 臨床検査学実習 災害看護学実習 看護学統合実習			
		山田 優子 (37) <令和2年4月> 博士(看護学)	ヘルスケアシステム 看護実践技術論Ⅰ 看護実践技術論Ⅱ フィジカルアセスメント 看護過程と看護方法論 看護理論 英語論文のクリエーター 災害看護学に関する卒業研究 看護学実習実習 日常生活援助実践実習 災害看護学実習 災害看護学実習 看護学統合実習								ヘルスケアシステム 看護実践技術論Ⅰ 看護実践技術論Ⅱ フィジカルアセスメント 看護過程と看護方法論 看護理論 英語論文のクリエーター 災害看護学に関する卒業研究 看護学実習実習 日常生活援助実践実習 災害看護学実習 災害看護学実習 看護学統合実習									
		吉川 加奈子 (37) <令和2年4月> 博士(看護学)	疾病予防看護学 自立支援看護学 災害看護学実習 看護学実習 地域看護学実習 在宅看護学実習 在宅看護学実習 英語論文のクリエーター 災害看護学に関する卒業研究 看護学実習実習 日常生活援助実践実習 災害看護学実習 在宅看護学実習 災害看護学実習 看護学統合実習								災害看護学実習 疾病予防看護学 自立支援看護学 看護学実習 地域看護学実習 在宅看護学実習 在宅看護学実習 英語論文のクリエーター 災害看護学に関する卒業研究 看護学実習実習 日常生活援助実践実習 災害看護学実習 在宅看護学実習 災害看護学実習 看護学統合実習							災害看護学実習 疾病予防看護学 自立支援看護学 看護学実習 地域看護学実習 在宅看護学実習 在宅看護学実習 英語論文のクリエーター 災害看護学に関する卒業研究 在宅看護学実習 災害看護学実習 看護学統合実習		
		吉田 亜希子 (43) <平成32年4月> 博士(看護学)	急性看護学実習 急性看護学実習 英語論文のクリエーター 災害看護学に関する卒業研究 看護学実習実習 日常生活援助実践実習 看護学実習実習 急性看護学実習 災害看護学実習 災害看護学実習								急性看護学実習 急性看護学実習 英語論文のクリエーター 災害看護学に関する卒業研究 看護学実習実習 日常生活援助実践実習 災害看護学実習 急性看護学実習 災害看護学実習 災害看護学実習							急性看護学実習 急性看護学実習 英語論文のクリエーター 災害看護学に関する卒業研究 急性看護学実習 看護学実習実習 英語論文のクリエーター 急性看護学実習 看護学実習実習		
		今井 香樹 (59) <平成33年4月> 博士(看護学)	臨床看護学実習																	
		豊田 英敏 (70) <平成32年4月> 博士(教育学)	教育学																	
		金子 あけみ (67) <平成32年4月> 博士(看護学)	疾病と治療 看護職とキャリア形成																	
		西山 幹枝 (45) <平成33年4月>	実用医療・看護英語																	
		菅田 匠真 (29) <令和2年4月> 博士(看護学)	実用英語Ⅰ 看護実習Ⅱ																	

兼任・兼任の別	職名	氏名 (生 年) <就任(予定)年月> <修了(予定)年月> <修了学位等>	担当授業科目名	兼任・兼任の別	職名	氏名 (生 年) <就任(予定)年月> <修了(予定)年月> <修了学位等>	担当授業科目名	兼任・兼任の別	職名	氏名 (生 年) <就任(予定)年月> <修了(予定)年月> <修了学位等>	担当授業科目名
兼任	准教授	山本 伸博 (50) <平成32年4月> 博士(文学)	人間関係論 哲学 倫理学	兼任	准教授	山本 伸博 (50) <令和2年4月> 博士(文学)	人間関係論 哲学 倫理学	兼任	准教授	山本 伸博 (52) <令和2年4月> 博士(文学)	人間関係論 哲学 倫理学
				兼任	講師	栗田 真麗 (39) <令和2年4月> 博士(日本語日本文学)	人間関係論	兼任	講師	栗田 真麗 (42) <令和2年4月> 博士(日本語日本文学)	人間関係論
兼任	講師	高野 寿哉 (46) <平成32年4月> 修士(理工学)	解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ	兼任	講師	高野 寿哉 (46) <令和2年4月> 修士(理工学)	解剖生理学Ⅰ	兼任	講師	早川 隆宣 (50) <令和4年4月> 学士(医学)	解剖生理学Ⅱ
				兼任	講師	竹尾 晴 (58) <令和2年4月>	解剖生理学Ⅱ				
兼任	講師	大谷 智子 (43) <平成32年4月>	心理学								
兼任	講師	西田 恵理 (37) <令和2年4月> 博士(人間科学)	心理学	兼任	講師	西田 恵理 (37) <令和2年4月> 博士(人間科学)	心理学	兼任	講師	西田 恵理 (38) <令和2年4月> 博士(人間科学)	心理学
兼任	講師	大倉 耀宏 (55) <平成32年4月> 修士(社会学)	社会学	兼任	講師	大倉 耀宏 (55) <令和2年4月> 修士(社会学)	社会学	兼任	講師	大倉 耀宏 (57) <令和2年4月> 修士(社会学)	社会学
兼任	講師	星月 重信 (77) <平成32年4月> 修士(教育学)	文化人類学	兼任	講師	星月 重信 (77) <令和2年4月> 修士(教育学)	文化人類学	兼任	講師	星月 重信 (79) <令和2年4月> 修士(教育学)	文化人類学
兼任	講師	真谷 伸 (65) <平成32年4月>	法学	兼任	講師	真谷 伸 (65) <令和2年4月>	法学	兼任	講師	青藤 和輝 (49) <令和5年10月> 学士(医学)	法学
兼任	講師	高橋 昌一郎 (61) <平成32年4月>	論理学								
				兼任	講師	山崎 紗紀子 (34) <令和2年4月> 博士(文学)	論理学	兼任	講師	山崎 紗紀子 (35) <令和2年4月> 博士(文学)	論理学
兼任	講師	根本 研 (48) <平成32年4月> 修士(体育科学)	スポーツ科学	兼任	講師	根本 研 (49) <令和2年4月> 修士(体育科学)	スポーツ科学	兼任	講師	野中 俊英 (37) <令和4年4月> 修士(体育科学)	スポーツ科学
兼任	講師	辻 豊弘 (54) <平成32年4月>	社会福祉制度概論 保健医療福祉システム論	兼任	講師	辻 豊弘 (54) <令和3年4月>	社会福祉制度概論 保健医療福祉システム論	兼任	講師	辻 豊弘 (57) <令和3年4月>	社会福祉制度概論 保健医療福祉システム論
兼任	講師	仮野 美穂乃 (55) <平成32年4月>	情報リテラシー	兼任	講師	仮野 美穂乃 (56) <令和2年4月>	情報リテラシー	兼任	講師	植田 太郎 (54) <令和4年4月> 学士(看護学)	情報リテラシー
兼任	講師	日黒 沙也香 (31) <平成32年4月>	実用英語Ⅰ 実用英語Ⅱ								
兼任	講師	阪口 暁 (31) <平成32年4月>	実用英語Ⅰ 実用英語Ⅱ 実用英語Ⅲ 実用英語Ⅳ 看護英語								
兼任	講師	何 欣琪 (28) <平成32年4月>	実用英語Ⅰ 実用英語Ⅱ								
				兼任	講師	PIJAWSKA WERUTA (30) <令和2年4月> 修士(看護学)	実用英語Ⅰ 実用英語Ⅱ 実用英語Ⅲ 看護英語	兼任	講師	リュウ イージャー (27) <令和4年4月> 修士(看護学)	実用英語Ⅰ 実用英語Ⅱ 実用英語Ⅲ 看護英語

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (生 年) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (生 年) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (生 年) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	綱原 知樹 (54) <平成32年4月> 修士(工学)	応用英語Ⅰ 応用英語Ⅱ 応用医療・看護英語	兼任	講師	綱原 知樹 (54) <令和2年4月> 修士(工学)	応用英語Ⅰ 応用英語Ⅱ 応用医療・看護英語	兼任	講師	綱原 知樹 (54) <令和2年4月> 修士(工学)	応用英語Ⅰ 応用英語Ⅱ 応用医療・看護英語
兼任	講師	李 克城 (57) <平成32年4月> 修士(医学)	中国語	兼任	講師	李 克城 (57) <令和2年4月> 修士(医学)	中国語	兼任	講師	李 克城 (57) <令和2年4月> 修士(医学)	中国語
兼任	講師	武田 祐治 (48) <平成32年4月> 学士(文学)	スペイン語	兼任	講師	武田 祐治 (48) <令和2年4月> 学士(文学)	スペイン語	兼任	講師	武田 祐治 (48) <令和2年4月> 学士(文学)	スペイン語
兼任	講師	栗田 大 (66) <平成32年4月>	医学薬論								
兼任	講師	山田 和昭 (70) <平成32年4月> 学士(医学)	病理学	兼任	講師	山田 和昭 (70) <令和2年4月> 学士(医学)	病理学	兼任	講師	山田 和昭 (70) <令和2年4月> 学士(医学)	病理学
兼任	講師	吉川 邦隆 (57) <平成32年4月>	生化学								
兼任	講師	宇田川 悦子 (70) <平成32年4月> 修士(保健衛生学)	微生物学	兼任	講師	宇田川 悦子 (70) <令和2年4月> 修士(保健衛生学)	微生物学	兼任	講師	宇田川 悦子 (70) <令和2年4月> 修士(保健衛生学)	微生物学
兼任	講師	大槻 豊實 (42) <平成32年4月>	薬理学								
兼任	講師	久保田 篤司 (59) <令和2年4月>	薬理学	兼任	講師	久保田 篤司 (59) <令和2年4月>	薬理学	兼任	講師	久保田 篤司 (59) <令和2年4月>	薬理学
兼任	講師	林 達樹 (72) <平成32年4月>	疾病と治療Ⅰ	兼任	講師	林 達樹 (72) <令和2年4月>	疾病と治療Ⅰ	兼任	講師	林 達樹 (72) <令和2年4月>	疾病と治療Ⅰ
兼任	講師	上村 亮弘 (58) <平成32年4月> 学士(医学)	疾病と治療Ⅰ	兼任	講師	上村 亮弘 (58) <令和2年4月> 学士(医学)	疾病と治療Ⅰ	兼任	講師	上村 亮弘 (58) <令和2年4月> 学士(医学)	疾病と治療Ⅰ
兼任	講師	竹道 重樹 (56) <平成32年4月>	疾病と治療Ⅱ	兼任	講師	竹道 重樹 (56) <令和2年4月>	疾病と治療Ⅱ	兼任	講師	竹道 重樹 (56) <令和2年4月>	疾病と治療Ⅱ
兼任	講師	清水 茂雄 (58) <平成32年4月> 学士(医学)	疾病と治療Ⅱ	兼任	講師	清水 茂雄 (58) <令和2年4月> 学士(医学)	疾病と治療Ⅱ	兼任	講師	清水 茂雄 (58) <令和2年4月> 学士(医学)	疾病と治療Ⅱ
兼任	講師	百川 夏樹 (57) <平成32年4月>	医療と法								
兼任	講師	清水 美智夫 (65) <令和3年4月>	医療と法	兼任	講師	清水 美智夫 (65) <令和3年4月>	医療と法	兼任	講師	清水 美智夫 (65) <令和3年4月>	医療と法
兼任	講師	前妻 孝仁 (67) <平成32年4月>	疾病と治療Ⅲ								
兼任	講師	谷戸 祥之 (57) <令和3年4月>	疾病と治療Ⅲ	兼任	講師	谷戸 祥之 (57) <令和3年4月>	疾病と治療Ⅲ	兼任	講師	谷戸 祥之 (57) <令和3年4月>	疾病と治療Ⅲ
兼任	講師	新井 公人 (66)	疾病と治療Ⅲ 解剖生医学Ⅰ	兼任	講師	新井 公人 (66)	疾病と治療Ⅲ 解剖生医学Ⅰ	兼任	講師	新井 公人 (66)	疾病と治療Ⅲ 解剖生医学Ⅰ
兼任	講師	宇田川 陽秀 (41) <令和4年4月> 博士(代数学)	生化学	兼任	講師	宇田川 陽秀 (41) <令和4年4月> 博士(代数学)	生化学	兼任	講師	宇田川 陽秀 (41) <令和4年4月> 博士(代数学)	生化学
兼任	講師	山田 和昭 (72) <令和2年4月> 学士(医学)	微生物学	兼任	講師	山田 和昭 (72) <令和2年4月> 学士(医学)	微生物学	兼任	講師	山田 和昭 (72) <令和2年4月> 学士(医学)	微生物学
兼任	講師	宇田川 悦子 (72) <令和2年4月> 修士(保健衛生学)	微生物学	兼任	講師	宇田川 悦子 (72) <令和2年4月> 修士(保健衛生学)	微生物学	兼任	講師	宇田川 悦子 (72) <令和2年4月> 修士(保健衛生学)	微生物学
兼任	講師	軍司 剛宏 (55) <令和4年4月>	薬理学	兼任	講師	軍司 剛宏 (55) <令和4年4月>	薬理学	兼任	講師	軍司 剛宏 (55) <令和4年4月>	薬理学
兼任	講師	小野 圭一 (64) <令和4年4月>	疾病と治療Ⅰ	兼任	講師	小野 圭一 (64) <令和4年4月>	疾病と治療Ⅰ	兼任	講師	小野 圭一 (64) <令和4年4月>	疾病と治療Ⅰ
兼任	講師	山口 直宏 (61) <令和5年4月> 博士(医学)	解剖生医学Ⅰ 病理学 疾病と治療Ⅱ	兼任	講師	山口 直宏 (61) <令和5年4月> 博士(医学)	解剖生医学Ⅰ 病理学 疾病と治療Ⅱ	兼任	講師	山口 直宏 (61) <令和5年4月> 博士(医学)	解剖生医学Ⅰ 病理学 疾病と治療Ⅱ
兼任	講師	清水 美智夫 (67) <令和3年4月>	医療と法	兼任	講師	清水 美智夫 (67) <令和3年4月>	医療と法	兼任	講師	清水 美智夫 (67) <令和3年4月>	医療と法
兼任	講師	谷戸 祥之 (59) <令和4年4月>	疾病と治療Ⅲ	兼任	講師	谷戸 祥之 (59) <令和4年4月>	疾病と治療Ⅲ	兼任	講師	谷戸 祥之 (59) <令和4年4月>	疾病と治療Ⅲ

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

- 専任教員に関する変更
 - ・令和2年より兼担山西文子教授が専任教授に就任
 - ・令和2年より青木和恵教授就任
 - ・令和2年より伊東朋子教授就任
 - ・篠崎真弓助教の就任辞退により吉川加奈子助教が就任
 - ・武田智晴助教の就任辞退により武居尚子助教が就任
 - ・政策医療論：草間朋子教授から山西文子教授に変更
 - ・災害看護学に関する卒業研究：草間朋子教授から山西文子教授に変更
 - ・看護管理学：山西文子教授から青木和恵教授に変更
 - ・小川助手から助教に就任

- 兼任教員・兼任に関する変更
 - ・臨床薬理学演習：兼担今井秀樹教授就任辞退により専任高木晴良准教授に変更
 - ・実用医療・看護英語：兼担西山幹枝准教授辞退により兼担青田庄真講師に変更
 - ・実用英語Ⅰ：兼任教員が3名から兼任教員1名に変更
 - ・実用英語Ⅱ：兼任教員が3名から兼任教員1名に変更
 - ・人間関係論：兼担山本神裕教授から兼任教員に変更
 - ・解剖生理学Ⅱ：兼担高野海蔵講師から兼任教員に変更
 - ・心理学：兼任教員が変更
 - ・論理学：兼任教員が変更
 - ・医学概論：兼任教員が変更
 - ・生化学：兼任教員が変更
 - ・薬理学：兼任教員が変更
 - ・医療と法：兼任教員が変更
 - ・疾病と治療Ⅲ：兼任教員2名が変更
 - ・人間工学：兼任教員が変更

【令和3年度】

- 専任教員に関する変更
 - ・令和3年より兼担山西文子教授が専任教授に就任
 - ・令和3年より松谷弘子教授就任
 - ・令和3年より内藤亜由美教授就任
 - ・令和3年より菅野由貴子講師就任
 - ・栗林好子助教就任辞退により大場久美助手に変更

- 兼任教員・兼任に関する変更
 - ・疾病と治療Ⅳ：兼担金子あけみ教授就任辞退により専任青木和恵教授に変更
 - ・看護職とキャリア：兼担金子あけみ教授就任辞退により兼担樺澤望講師に変更
 - ・解剖生理学Ⅱ：兼担竹尾勝講師就任辞退により兼担高野海蔵講師に変更
 - ・人間関係論：兼担栗田真瑩講師就任辞退により兼担山本神裕准教授に変更
 - ・心理学：兼任吉田恵理講師就任辞退により兼任大谷智子講師に変更
 - ・論理学：兼任山崎紗紀子講師就任辞退により兼担高橋昌一郎講師に変更
 - ・生化学：兼任芳賀輝子講師就任辞退により兼任吉川邦衛講師に変更
 - ・人間工学：兼任大谷華講師就任辞退により兼任奥山康男講師に変更
 - ・臨床栄養学演習：兼任田中由美子講師就任辞退により兼任小林佐衣子講師に変更

【令和4年度】

- 専任教員に関する変更
 - ・田野将尊准教授の就任辞退により柳橋正智講師が就任
 - ・黒澤範子講師から准教授に就任
 - ・テイラー栄子講師から准教授に就任
 - ・折元美雪助教から講師に就任
 - ・泥谷朋子助手から助教に就任
 - ・大場久美助手から助教に就任
 - ・吉川助教の姓が村田に変更

- 兼任教員・兼任に関する変更
 - ・解剖生理学Ⅰ：兼担高野海蔵講師就任辞退により兼担早川隆宣講師に変更
 - ・解剖生理学Ⅱ：兼担高野海蔵講師就任辞退により兼担土井庄三郎講師に変更
 - ・スポーツ科学：兼任根本研講師就任辞退により兼担野中俊英講師に変更
 - ・実用英語Ⅰ、実用英語Ⅱ、実用医療・看護英語：兼任PIJANOWSKA, MARUTA講師就任辞退により、兼任リュウ イージー講師に変更
 - ・実用英語Ⅰ、実用英語Ⅱ、実用医療・看護英語：兼任Hywel Evans講師就任辞退により、兼担高橋杏紗講師に変更
 - ・薬理学：兼担久保田篤司講師就任辞退により兼担車司剛宏講師に変更
 - ・疾病と治療Ⅰ：兼担林茂樹就任辞退により兼担小野圭一講師に変更

【令和5年度】

- 専任教員に関する変更
 - ・山西文子教授の就任辞退により長田恵子教授が就任(学部長)
 - ・衣川さえ子教授の就任辞退により内田貴峰准教授が就任
 - ・桜井礼子教授が定年退職
 - ・吉田奈々絵助手が就任
 - ・柳橋正智講師の就任辞退により阿川かなえ助教が就任
 - ・黒澤範子准教授の就任辞退により小平明日香講師が就任
 - ・穴戸路佳講師が准教授に就任
 - ・今井淳子助教の就任辞退により渡邊はる美助手が就任
 - ・小川賢恵助教が講師に就任
 - ・武居尚子助教の就任辞退により濱崎信恵助教が就任
 - ・松山妙子助教が講師に就任
 - ・三浦由紀子助教が講師に就任
 - ・土井庄三郎兼任講師が専任教授に就任
 - ・榎原知樹兼任講師が専任講師に就任

- 兼任教員・兼任に関する変更
 - ・解剖生理学Ⅱ及び病理学を新たに樺澤望講師が担当
 - ・疾病と治療Ⅲ及び病理学を新たに早川隆宣講師が担当
 - ・仮屋美乃乃講師の就任辞退より福田太志講師が情報リテラシーを担当
 - ・リュウイージー講師の就任辞退によりリーカーフ講師が実用英語Ⅰ、実用英語Ⅱ、実用医療・看護英語を担当
 - ・疾病と治療Ⅱを新たに関口直宏講師が担当
 - ・解剖生理学Ⅰを新たに谷戸祥之講師が担当
 - ・高橋杏紗講師の就任辞退によりHywel Evans講師が実用英語Ⅰ、実用英語Ⅱ、実用医療・看護英語を担当
 - ・小林佐衣子講師の就任辞退により須原将広講師が臨床栄養学演習を担当
 - ・死生学(新カリ科目)を担当する宮本新講師が新たに就任

- (注) 変更内容を簡潔書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（A C教員審査）を受けてください。**A C教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ A C教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織(学科連係課程実施学科)の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二(短期大学設置基準第三条の二)に基づく「連係協力学部等(連係協力学科)」の専任教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等(連係協力学科)ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
12	6
名	名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。

・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画について、()内に開設時の教員数を記入してください。

設置時の計画						現在(報告時)の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
7	2	8	10	27	3	6	7	9	7	29	3
(7)	(2)	(8)	(10)	(27)	(3)						
現在(報告時)の完成年度時の状況						現在(報告時)の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
6	7	9	7	29	3	6	7	9	7	29	3
[Δ1]	[+5]	[+1]	[Δ3]	[+2]	[±0]	[Δ1]	[+5]	[+1]	[Δ3]	[+2]	[±0]

設置時の計画との増減数を〔 〕内に記入してください。(記入例:Δ1)

設置時の計画との増減数を〔 〕内に記入してください。(記入例:Δ1)

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在(報告時)の状況」には、報告年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、教員審査を済ませ済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、〔 〕内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例:1名減の場合:Δ1)
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、〔 〕内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例:1名減の場合:Δ1)

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告時(上記(B))の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時(上記(C))の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	2	2
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段階まで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

数式が入力されています。

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{29}{27} = 107.4\%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成

数式が入力されています。

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{2}{29} = 6.89\%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

数式が入力されています。

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{3}{3} = 100\%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) 一① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
								必修	選択	自由
1	准教授	田野 将尊	R4.3	必修	臨床コミュニケーション論	①	R4.3 一身上の都合により就任辞退			
				必修	精神看護学概論	①				
				必修	精神看護実践論	①				
				必修	障害者看護論	①				
				必修	英語論文のクリティーク	①				
				必修	チーム医療論	①				
				必修	災害看護学に関する卒業研究	①				
				必修	精神看護学実習	①				
				必修	災害看護学実習	①				
				必修	看護学統合実習	①				
2	助教	山田 泰子	R4.3	必修	ヘルスアセスメント	①	R4.3 一身上の都合により就任辞退			
				必修	看護実践技術論Ⅱ	①				
				必修	看護実践技術論Ⅲ	①				
				必修	フィジカルアセスメント	①				
				必修	看護過程と看護方法論	①				
				必修	看護理論	①				
				必修	国際看護学	①				
				必修	英語論文のクリティーク	①				
				必修	災害看護学に関する卒業研究	①				
				必修	看護学体験実習	①				
				必修	日常生活展開実習	①				
				必修	看護過程展開実習	①				
				必修	災害看護学実習	①				
必修	看護学統合実習	①								
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
2	人	必修	24	科目	必修	24	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	24	科目	計	24	科目	計	0	科目

(注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。

- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) 一②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び() 書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) 一② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
1	教授	山西 文子	R4.6	必修	政策医療論	①	R4.6 長田恵子学部長就任により就任辞退(令和5年度)
				選択	看護政策論	①	
				必修	災害看護学に関する卒業研究	①	
2	教授	衣川 さえ子	R5.3	必修	疾病と治療Ⅳ	①	R5.3 一身上の都合により就任辞退(令和5年度)
				必修	母性看護学概論	①	
				必修	母性看護実践論	①	
				必修	英語論文のクリティーク	①	
				必修	災害看護学に関する卒業研究	①	
				必修	母性看護学実習	①	
				必修	災害看護学実習	①	
				必修	看護学統合実習	①	
3	准教授	黒澤 範子	R5.3	必修	母性看護学概論	①	R5.3 一身上の都合により就任辞退(令和5年度)
				必修	母性看護実践論	①	
				必修	英語論文のクリティーク	①	
				必修	災害看護学に関する卒業研究	①	
				必修	母性看護学実習	①	
4	講師	柳橋 正智	R5.3	必修	臨床コミュニケーション論	①	R5.3 一身上の都合により就任辞退(令和5年度)
				必修	精神看護学概論	①	
				必修	精神看護実践論	①	
				必修	障害者看護論	①	
				必修	英語論文のクリティーク	①	
				必修	チーム医療論	①	

				必修	災害看護学に関する卒業研究	①							
				必修	精神看護学実習	①							
				必修	災害看護学実習	①							
				必修	看護学統合実習	①							
5	助教	今井 淳子	R5.3	必修	自然科学の基礎	①	R5.3 一身上の都合により就任辞退(令和5年度)						
				必修	看護実践技術論Ⅰ	①							
				必修	ヘルスアセスメント	①							
				必修	英語論文のクリティーク	①							
				必修	災害看護学に関する卒業研究	①							
				必修	災害看護学実習	①							
				必修	看護学統合実習	①							
				必修	看護学体験実習	①							
				必修	日常生活援助展開実習	①							
				必修	看護過程展開実習	①							
				合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)					
				辞任した教員数				担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)	
5	人	必修	38	科目	必修	38	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	38	科目	計	38	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)			後任補充状況の集計 (E) + (G)											
辞任等した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)			②の合計数 (b)			③の合計数 (c)		
7	人	必修	62	科目	必修	62	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	
		計	62	科目	計	62	科目	計	0	科目	計	0	科目	

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{7}{30} = \boxed{23.33} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由							
5	教授	桜井 礼子	必修	地域看護学概論	①	R5.3 定年退職により就任辞退(令和5年度)							
			必修	疾病予防看護学	①								
			必修	自立支援教育論	①								
			必修	家族看護学	①								
			必修	国際看護学	①								
			必修	災害看護学Ⅱ	①								
			必修	地域・在宅看護学概論	①								
			必修	英語論文のクリティーク	①								
			必修	在宅看護実践論Ⅰ	①								
			必修	在宅看護実践論Ⅱ	①								
			必修	災害看護学に関する卒業研究	①								
			必修	在宅看護学実習	①								
			必修	災害看護学実習	①								
			必修	看護学統合実習	①								
合計			後任補充状況の集計										
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)						
1	人	必修	14	科目	必修	14	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	14	科目	計	14	科目	計	0	科目	計	0	科目

(注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任担当教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

現在までに、教授4名(内1名定年退職)、准教授2名、講師1名、助教1名、合計8名の教員が一身上の都合等により就任を辞退されたが、教育に支障を生じないよう後任の補充に努めている。なお、講師及び助教の担当科目については科目責任者の教授をはじめ複数の教員で担当しているため教育に支障を生じないと考える。また、医療の高度化、複雑化に伴い、看護学専門領域の教育の充実を図るため教員を増員した。学生への周知については履修ガイダンスやシラバス更新により周知している。

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和2年4月)	該当なし		
(令和3年4月)	該当なし		
(令和4年4月)	該当なし		
(令和5年4月)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。
 - 【令和4年度報告書から記載内容に変更がある場合】
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。
 - 【令和4年度報告書から記載内容に変更がない場合】
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4) (5)」と記載してください。
 - 【令和5年度から新たに調査対象となった学科等又は令和4年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】
「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<立川看護学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

東京医療保健大学立川看護学部FD委員会規定を制定し、立川看護学部FD委員会を設置している。（教員4名）

※東京医療保健大学立川看護学部FD委員会規定（添付資料1）

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

毎月第3木曜日開催としている。令和5年4月開催については、新型コロナウイルス感染拡大防止を万全にして実施した。

c 委員会の審議事項等（予定）

- ・ 令和5年度の委員会活動方針の決定
- ・ 各委員の役割分担の決定
- ・ 定期FD研修会（月1回）及び集中FD研修会（夏季・春季に各1回）の開催
- ・ 立川看護学部活動報告会の開催
- ・ 東京医療保健大学立川看護学部第3期中期目標・計画およびアクションプランの策定
- ・ 令和5年度立川看護学部FD活動状況報告書の作成

② 実施状況

a 実施内容

- ・ 第1回FD企画、副学長（立川看護学部長）による「立川看護学部」の教職員を対象に『身分および勤務について』を実施済み。第2回FD企画については、6月以下のとおり実施予定である。

テーマ「教員としての心得」（仮）対面と遠隔操作で実施予定。

対象は全教職員。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・ 今年は科目終了後にWebで実施した。

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・ ホームページ（ウェブ）等で公開していくこととしている。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

・本学学測第4条（注）に則り、本学全体の教育研究水準の向上を図り、その目的及び社会的使命を達成するため、自己点検・評価委員会を設置している。

（注）第4条本学は、教育研究水準の向上を図り、その目的及び社会的使命を達成するため、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び整備の状況について、自ら点検評価を行い、その結果を公表する。

2 本学に自己点検・評価を行うため、東京医療保健大学自己点検・評価委員会を独立した特例委員会として設置する。

3 自己点検・評価に関する事項に定める。

・自己点検・評価委員会においては、本学の建学の精神及び教育目標・教育目的を具現化するために、教育研究活動に必要な組織・制度と諸条件を整備し、その機能を十分発揮できるよう本学の教育研究に関する活動状況並びに組織・整備、運営状況等について、自己点検・評価を実施するとともに、所要の改善を図ることとしている。

② 自己点検・評価報告書

令和4年度版を令和5年5月公開予定。

③ 認証評価を受ける計画

・平成30年度、大学基準協会による認証評価実施済み。次回は6年後の令和9年度に受審予定

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和5年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

≪ aで公表「無」の場合≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイトにて公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。